

TOPICS



復興特別所得税の

源泉徴収について

国税庁

平成23年12月2日に東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法（平成23年法律第117号）が公布されました。

これにより、所得税の源泉徴収義務者は、平成25年1月1日から平成49年12月31日までの間に生ずる所得について源泉所得税を徴収する際、復興特別所得税を併せて徴収し、源泉所得税の法定納期限までに、その復興特別所得税を源泉所得税と併せて国に納付しなければならぬこととされました。

注 租税条約の規定により、所得税法及び租税特別措置法に規定する税率以下の限度税率が適用される場合には、復興特別所得税は課税されません。

1 源泉徴収すべき所得税及び復興特別所得税の額

源泉徴収すべき復興特別所得税の額は、源泉徴収すべき所得税の2.1%相当額とされており、復興特別所得税は、所得税の源泉徴収の際に併せて源泉徴収することとされており、

実際には、以下のとおり、源泉徴収の対象となる支払金額等に対して、所得税と復興特別所得税の合計税率を乗じて計算した金額を徴収し、1枚の所得税徴収高計算書（納付書）で納付します。

注 給与等に係る所得税及び復興特別所得税の源泉徴収については次の2により行います。

2 給与等に係る所得税及び復興特別所得税の源泉徴収

給与等については、平成25年分以後の源泉徴収税額表に基づき、所得税と復興特別所得税の合計額を徴収し、1枚の所得税徴収高計

【源泉徴収すべき所得税及び復興特別所得税の額】

$$\text{支払金額等} \times \text{合計税率} (\%)^{(*)} = \text{源泉徴収すべき所得税及び復興特別所得税の額}^{(注)}$$

(注) 算出した所得税及び復興特別所得税の額に1円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てます。

※1 合計税率の計算式

$$\text{合計税率} (\%) = \text{所得税率} (\%) \times 102.1\%$$

※2 所得税率に応じた合計税率の例

所得税率 (%)	5	7	10	15	16	18	20
合計税率 (%) (所得税率 (%) × 102.1%)	5.105	7.147	10.21	15.315	16.336	18.378	20.42

※3 具体的事例：報酬・料金として888,888円を支払った場合（所得税率10%の場合）

$$888,888 \text{ 円} \times 10.21\% = 90,755.4648 \text{ 円} \quad (1 \text{ 円未満切り捨て}) \Rightarrow 90,755 \text{ 円}$$

(支払金額) (合計税率) (算出税額) (源泉徴収税額)

(例) 講演料として100,000円を支払いましたが、これは税引後の手取額です。納付すべき所得税及び復興特別所得税の額はどのように算出すれば良いのでしょうか？

(支払金額)

$$100,000 \text{ 円} \div (100 - 10.21)\% = 111,370.976 \dots \xrightarrow{(1 \text{ 円未満切り捨て})} 111,370 \text{ 円}$$

(税引手取額) (合計税率) (算出金額) (支払金額)

(所得税及び復興特別所得税の合計額)

$$111,370 \text{ 円} \times 10.21\% = 11,370.877 \dots \xrightarrow{(1 \text{ 円未満切り捨て})} 11,370 \text{ 円}$$

(支払金額) (合計税率) (算出税額) (納付すべき税額)

算書（納付書）で納付します。

注 平成25年分以後の源泉徴収税額表は、国税庁ホームページに掲載しています（税務署からも年末調整を行う時期に配布する予定です）。

3 年末調整

給与等から源泉徴収する税額は、所得税と復興特別所得税の合計額となっており、年末調整も所得税と復興特別所得税の合計額で行います。